千　厩

地域だより
ICHINOSEKI

呼吸を合わせてもちをつく園児と青年部員

日本のお正月を伝承
大きな臼でもちつき

千厩商工会青年部（菊地宏太郎部長・会員46人）は1月13日、奥玉保育園（佐藤静枝園長・園児57人）の園児に正月行事を楽しんでもらおうと「もちつき交流会」を催しました。同部員は雪で覆われた真っ白な園庭に臼ときねを持ち込んで昔ながらの“もちつき”を再現。園児は順番に、同部員と一緒に千本杵を持ち「ヨイショ、ヨイショ」と元気な声を掛けていました。

つき上がったもちは、きな粉もちと納豆もちにして振る舞われ、「お兄さんたちと一緒で楽しかった。おいしかった」と園児は大喜びでした。

不用な枝葉を資源に
自治会で破砕機導入

千厩町千厩地区の北ノ沢自治会（千葉明夫会長・86世帯）は地域の環境整備に役立てようと、剪定した枝葉をチップにする破砕機『チッパシュレッダー』を導入しました。機械は、（財）自治総合センターが助成する「宝くじ普及広報事業費」のコミュニティー助成金で購入。

チップは生ごみの分解作用や除草効果があるといい、森林の間伐の重要性が見直されている近年、これまで焼却処分していた自然資源を生かすリサイクルとして注目されます。

導入した破砕機『チッパシュレッダー』

ラングレー高校で習字を教える参加者（中央の２人）

千厩中学生が学んだ
カナダの文化と生活

千厩町国際友好協会（佐藤哲夫会長・会員163人）が主催する中学生海外派遣事業「第６回若駒の翼事業」に参加した千厩中学校（及川 正二校長・生徒数386人）の生徒６人は１月３日から９日まで、カナダのラングレー市などを訪問し、国際理解を深めてきました。

参加者のリーダー畠山葉子さん（千厩中２年）は、「生活様式の違いに戸惑いや不安もあったが、ホームステイの家庭で温かく迎えられ、たくさんのことを教えてもらった。もっと滞在していたかった。今後、研修の成果を生かしていきたい」と感想を述べてくれました。